通りの家 ～家の中心でコミュニケーションと思い出を育む家～

車出入り口側から見る

奥行きを感じさせるホール

メインアプローチ

家の中心のオープンスペース

こもり感をもつ居間

■ 背景

多世代で一緒に長い間生活するためには家族の関わりと自分一人の時間を作り出すことが重要だと考える。
提案する住宅では、各部屋からは中央のオープンスペースへつながっている。これによってオープンスペースでは家族同士が関われることができ、その一方で各部屋では自分の時間を活用する。またこの家では各自の部屋のほかに南北のデッキや和室などがあることで自分の居場所をその時の気分によって変えられることができる。

■ 家族のストーリー

この家の家族構成は夫 (36)、母 (34)、長女 (10)
長男 (5)、祖母 (68) となっている。
家族と祖母は元々離れて生活していたが都市部での子供たちの遊び場が限られて様々な経験をさせられないことや地域の人々の関わりが少なく談外感を感じていた。また祖母が一緒に暮らしていた祖父が施設に入って家に一人になってしまったことがきっかけとなり５人が一緒に生活することを決めた。

■ 敷地

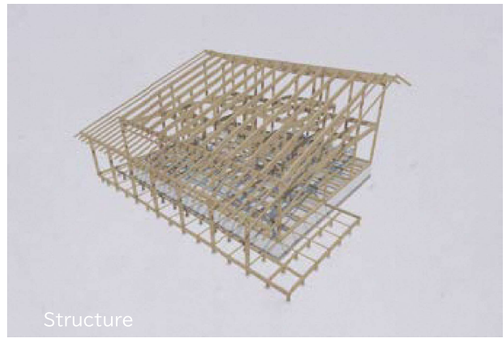
敷地は京都府内の山里の集落にある。隣人と世間話をしたり育てた野菜をお互いにシェアしたりするように計画敷地では都市部と比べ周囲との関わり合いが強い。
敷地は角地にあることから地域コミュニティの中心的になる可能性があると考えた。

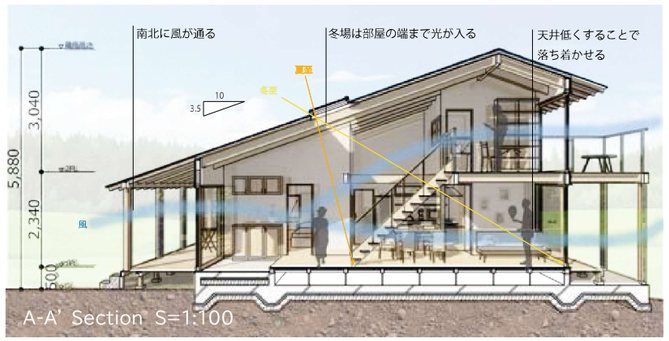
■ 構造計画・木材利用

在来軸組工法とした。構造材や外壁などに肌目がやや荒く経年変化が楽しめる特徴がある杉材を使い、住宅の家具や建具、床材などに肌目が美しく、良い香りがする特徴があるヒノキ材を使う。
室内では柱や梁などの構造体を見せることで開放感や木の温かみを感じやすくさせる。
また計画敷地は積雪が多いため屋根勾配を 3.5 寸にし雪を落としやすくさせた。

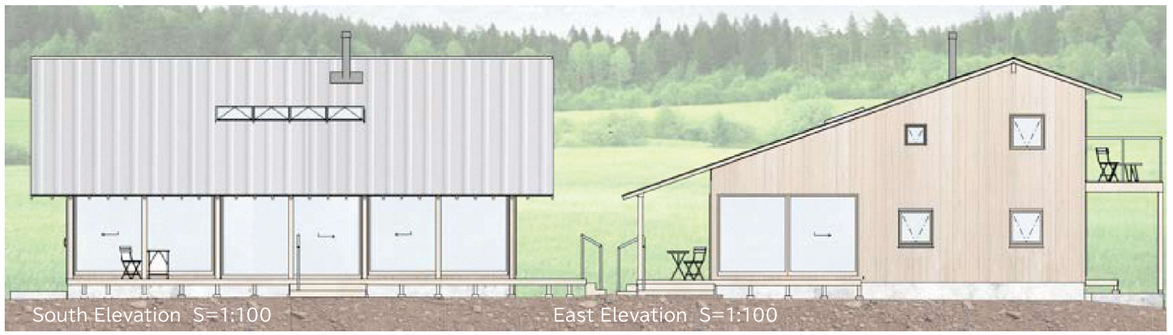
杉材

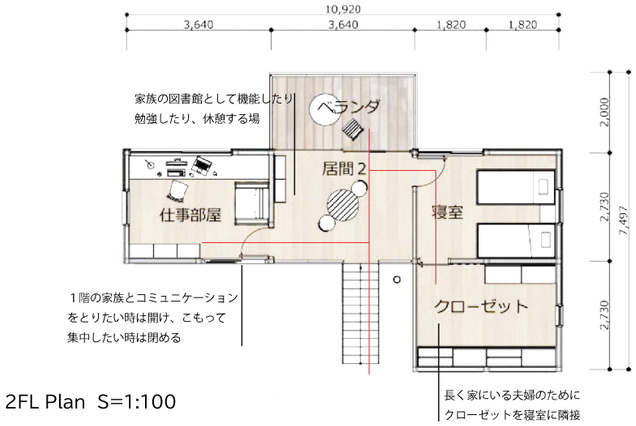
ヒノキ材


Structure



A-A' Section S=1:100

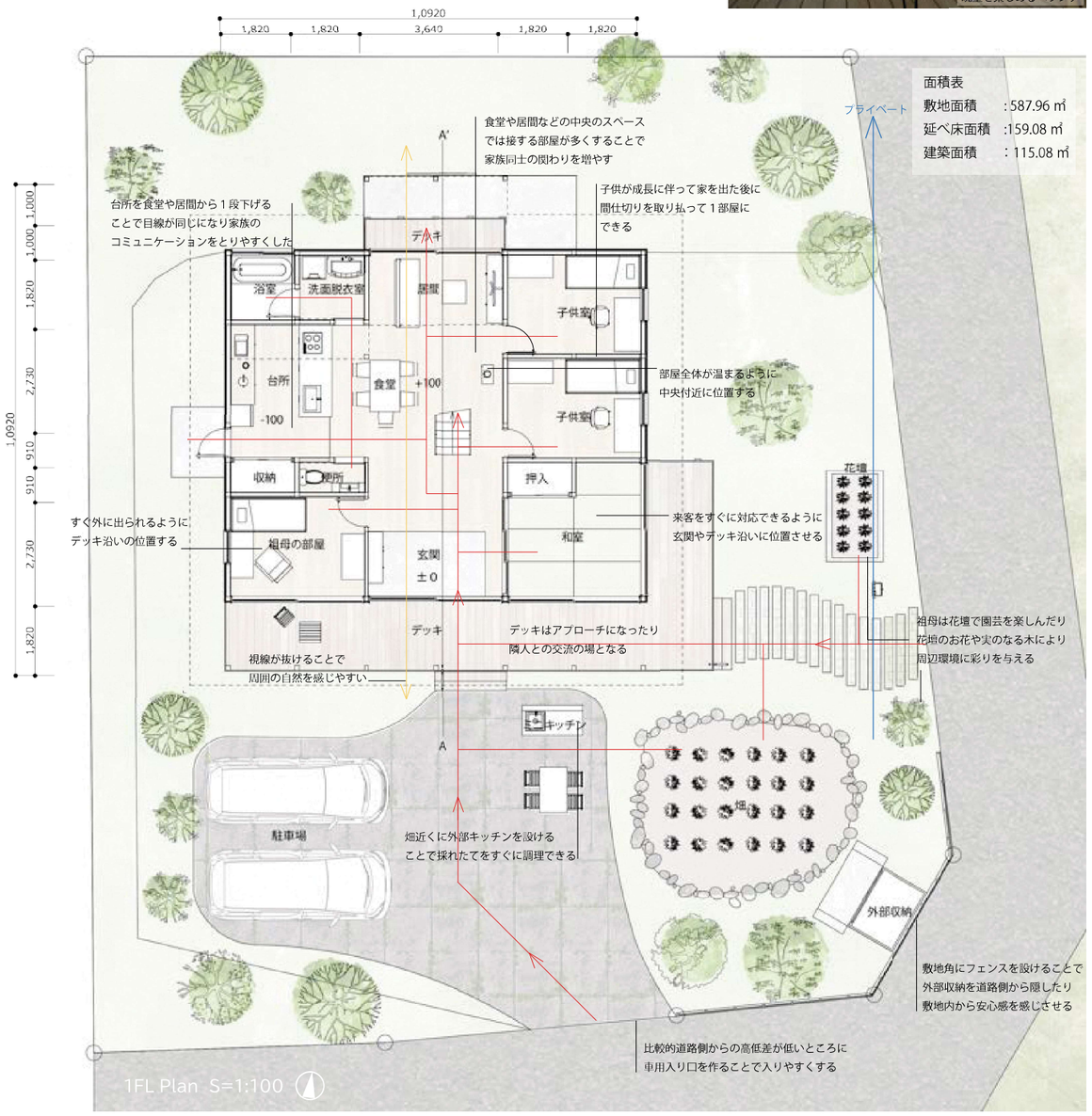

South Elevation S=1:100
East Elevation S=1:100



2FL Plan S=1:100

景色を見て気持ちを切り替える仕事部屋

眺望を楽しめるベランダ



1FL Plan S=1:100